

英語コーパス学会 Newsletter No. 36

Mar. 15, 2002

■会長: 今井 光規
■事務局: 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室
■TEL: 088-656-7129 ■郵便番号: 00940-5-250586 (英語コーパス学会)
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: jun@ias.tokushima-u.ac.jp

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

1. 第19回大会のご案内

英語コーパス学会第19回大会は、4月20日(土)に大阪大学言語文化研究科(〒560-0043 豊中市待兼山町1-8 06-6850-6111。阪急宝塚線石橋駅または大阪モノレール柴原駅より徒歩15分。詳細は <http://www.lang.osaka-u.ac.jp/index.html> を参照。「事務局から」の欄に簡単なアクセスマップを掲載。)で開催されるはこびとなりました。会場校のご好意と田畑智司大会準備委員のご尽力に感謝致します。

大会プログラムとレジュメを同封いたします。今大会では研究発表と特別講演を準備しました。研究発表第1セッションには小原平先生(慈恵会医科大学)の「The Paston LettersのXML版コーパスの作成とその課題・問題点」と高橋薫先生(豊田工業高等専門学校)山下淳子先生(名古屋大学)伊藤彰浩先生(愛知学院大学)による共同研究「応用言語学的視点による英語コーパスの解析」の2件を予定しております。続いて第2セッションでは石川慎一郎先生(広島国際大学)の「D.H.ロレンス詩におけるイメージの展開: 作品コーパスの構成語彙分析に基づく研究」と渡部眞一郎先生(大阪大学)の「押韻俗語表現の特徴」の2件をお願い致しました。

小原先生の発表は、今後コーパス編纂の主流となるだろうと言われているXML形式を利用した史的コーパスの作成を扱った研究です。デザインと内容を分離する新しいXMLと呼ばれるファイル形式で、出来るだけ人間に分りやすいコーパスの編纂を目指したものです。高橋先生・山下先生・伊藤先生の発表ではBNC World Editionに与えられている様々な付加情報を利用した応用言語学的な研究の可能性を追求します。テキストの難易度の指標であるReadabilityとTarget groupとの関連、言語学的な付加情報から関係節を自動抽出し、その難易度を測定することが主なトピックとなります。石川先生の発表は、OCRを利用して電子化したロレンスの『最後詩集』の語彙を分析することにより、この作品において生と死というイメージが具体的にどのように展開するのかを検証します。渡部先生の発表では、押韻俗語表現と呼ばれる表現をOED² on DC-ROM等から抽出し、用例コーパス

を作成する過程に触れつつ、作成されたコーパスに基づいてこの表現法の様々な特徴を分析します。

今回は、コーパスの編纂に関連する発表が3件、既存のコーパスの内ワークショップでも取り上げられているBNC World Editionを使った研究が1件、史的研究や、社会言語学的、統語論的な観点に数理的な分析を加えた研究、文学作品やある特殊な表現に焦点を当てた研究など、それぞれ興味深い発表です。ご期待下さい。

特別講演では、Nijmegen大学名誉教授のJan Aarts先生をお招きして、「Corpus Linguistics: Past, Present and Future」と題した講演をお願い致しました。Forum欄でも後ほど触れますが、前会長齊藤俊雄先生(大東文化大学)を中心に、主にJAECS会員が執筆した論文集*English Corpus Linguistics in Japan*がオランダの出版社Rodopiから3月下旬に出版の運びになりました。この論文集は、Aarts先生が編集主幹の一人を勤めていますシリーズLanguage and Computersの第38巻として刊行されます。そこで、その刊行を記念して、執筆者全員でAarts先生を日本にご招待することになり、同時に第19回大会でご講演を頂くことを、Aarts先生ご本人と大会実行委員会でお認め頂きました。Aarts先生はコーパス言語学界の最長老の一人です。Nijmegen大学退職後も、上記シリーズの編集主幹、ICAMEの理事などを勤めておられます。まさに彼の経歴がコーパス言語学の歴史と言っても過言ではありません。この講演は、そのAarts先生から、コーパス言語学の歴史と将来にわたる可能性についてお聞きすることができるまたと無い良い機会です。是非、ご参加下さい。

なお、折角の来日ですので、Aarts先生には大阪大学での大会の後、東京で東支部主催の講演会をお願いしております。詳しくは、下記の東支部主催Aarts先生の講演会のお知らせをご覧下さい。

2000年12月にBNC World Editionがリリースされ、日本でもようやくBNCを利用した本格的な研究が可能となりました。JAECSでは、1999年にBNC Samplerがリリースされたことを契機として、同年秋の第14回大会でワークショップ「BNCのデータ構造とSARAによる検索」を開催、BNC開発に重要な役

割を果たされた Leech 先生にも“ Corpus Linguistics and the BNC ” と題した講演をお願いしました。また、昨年秋の第 18 回大会では、「BNC World Edition を使いこなす」と題して明海大学の投野由紀夫先生とインターネット上での BNC 検索ソフトを開発している小学館の担当者にワークショップをお願いするなど、BNC に関する情報提供を行ってきました。それでもなお、複雑な付加情報を持った 1 億語のコーパスは、なかなか簡単には利用できないとの声が聞かれます。そこで、今回は、もう一度その利用法をワークショップとして取り上げることにしました。

今回は、第 14 回大会の時と同じ事務局の中村が担当し、SGML の Tag としてコーパスに付与された様々な情報を利用した複合検索の方法を、SGML 対応検索ソフトである SARA を使って実際に体験していただきます。ただし、今回のワークショップでは全ての参加者に BNC World Edition を準備することが出来ません。また、参加者に BNC World Edition を持参して頂いても、インストールしている時間的な余裕がありません。そこで、多少 Version は違いますが BNC Sampler をご持参頂き、使用することに致しました。BNC World Edition をお持ちで、Sampler をお持ちでない方には、ある程度は事務局で準備可能ですので、その旨ご相談下さい。

参加御希望の方は、あらかじめ事務局宛てに、葉書あるいは電子メールでお申し込み下さい。但し、先着 30 名（予定）で締め切らせて頂きます。英語コーパス学会の会員であれば参加費は無料です（非会員の場合は参加費 1,000 円）。なお、ワークショップの会場は大会会場とは別棟の A 棟 3 階 315 号室です。当日の案内に従って下さい。

大会関連のご案内は以上です。春の待兼山でお会いできることを、会長、大会準備委員、事務局ともどもお待ちしております。

2. 『英語コーパス研究』第 9 号について

『英語コーパス研究』第 9 号(2002)への投稿状況につきましては、前号のニューズレターでお知らせしましたが、その後の進捗状況は以下の通りです。

特別寄稿論文 1 名(Karin Aijmer 先生)
論文 1 名、紙上シンポジウム 5 名、海外レポート 1 名

現在、査読作業を終え校正段階に入っています。審査委員の先生方には、お忙しい時期に査読作業を快く引き受けていただき、丁寧なご助言を賜りました。この場を借りて、厚くお礼を申し上げます。4 月 20 日大阪大学言語文化学部で開催される大会での配布に向けて、編集委員一同、最善を尽くす所存です。引き続き皆様のご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

なお、今年度から新たに編集委員として山崎俊次先生(大東文化大学)、保坂道雄先生(日本大学)に加わっていただき、西納先生、吉村先生と私の合計 5 名体制で編集を進めていることも、報告させていただきます。

『英語コーパス研究』編集委員会
深谷輝彦

3. JAECS10 周年記念誌について

「英語コーパス学会の 10 年間の活動成果を論文集としてまとめ、学会活動の意義を広く世に問う」ことを目的として JAECS10 周年記念論文集を刊行することは既に、第 18 回大会でご報告し、Newsletter No. 35 でお知らせした通りです。本年 1 月 10 日までに仮題と簡単な執筆方針のご提出を頂き、現在のところ 16 名の会員から応募がありました。300 ページから 400 ページの英文論文集として出したいと思っておりますので、16 名は予想外に少ない数だと思われます。一応、締切りは 1 月 10 日に設定させていただきましたが、まだ応募可能ですので、事務局までご一報下さい。できるだけ多数の会員諸氏のご応募をお待ちしております。

ヨーロッパの出版社から 2003 年の秋季大会を目途に出版することを考えておりますので、Rodopi の書式に合わせたテンプレートと執筆要領を編集委員会で作成し、ご応募頂いた会員の皆様には、すでに配布致しました。事務局の手際が悪く、執筆要領の送付が遅くなりご迷惑をおかけしましたことを、お詫び致します。

今後の予定は以下の様になっております。

【原稿提出締め切り】2002 年 9 月末日（ネイティブスピーカーのチェックを受けた原稿とする。）

【審査方法】編集委員会が審査にあたる。審査の手続き等は、編集委員会で案を作成し、運営委員会の承認を得る。

【審査結果の発表】2002 年 12 月

【カメラレディの最終稿締め切り】2003 年 4 月

【出版】2003 年 10 月秋季大会時

なお、この論文集に関する連絡、論文提出などにつきましては、全てメールで行うことを原則と致します。お問い合わせなどは編集委員長の中村まで。上でも述べましたように、まだ投稿可能です。できるだけ多くの会員諸氏からのお申し出をお待ちしております。

4. 英語コーパス学会学会賞・奨励賞の推薦理由書について

JAECS10 周年記念事業の 2 番目の柱は学会賞の制定でしたが、これにつきましても、第 18 回大会でこ

報告し、*Newsletter No. 35* でお知らせした通りです。今年秋の第 20 回大会での学会賞第 1 号の誕生を目指してすでに募集をしております。以下に、募集要領を再録致しますので、ご推薦、ご応募のほどお願い致します。

【対象】英語コーパス学会の目的に照らし、顕著な業績をあげた個人またはグループ。ただし、奨励賞は応募期限日において 35 歳以下の個人に限る。

【応募方法】自薦、他薦を問わない。

【提出書類】1) 推薦理由書(所定の書式による)
2) 対象となる研究業績の現物またはコピー

【応募期限】毎年 3 月 31 日必着

【応募書類提出先】英語コーパス学会事務局

【審査方法】運営委員を中心に構成された審査委員会が審査に当たり、審査結果を運営委員会に報告、了承を受ける。

【審査結果の報告および表彰式】秋期大会の開会式

なお、提出書類のうち推薦理由書の書式は、学会ホームページにアップロードの予定ですが、作業が遅れています。事務局では準備できておりますので、お申し出頂ければ、Word の添付ファイルでお送り致します。

5. 東支部の活動について

JAECs Newsletter No. 35 以降の東支部の活動を順を追ってご報告します。

M. Barlow 氏を囲んで

M. Barlow 氏をご存知のように Corpus Linguistics ホームページで知られているほか、*International Journal of Corpus Linguistics* や *Language in Contact* の共同編集を勤めている著名なコーパス言語学者です。昨年秋、独立行政法人通信総合研究所の招きで来日され、本学会会員の大堀壽夫先生(東京大学)や杉浦正利先生(名古屋大学)の所属する大学でも講演会が開催されました。JAECs-ML でも紹介がありましたので参加された会員もいると思います。東支部でも、講演会を企画する予定でしたが日程の調整がつかず、11 月 28 日に数名の有志で彼を囲み情報交換の場を持ち、JAECs を中心とした日本のコーパス言語学界の現状をアピールしました。

「第 5 回コンピュータによる英語研究の講習会」

英語コーパス学会東支部主催で中高大教員、院生対象のコンピュータ講習会を平成 13 年 12 月 1 日(土)午後、中央大学多摩キャンパスで開催し、37 名の参加者がありました。「WordSmith の活用の基礎」と題

して WordSmith の機能の概要、コーパス・データの管理方法、単語リストの作成、キーワード分析、コンコーダンス機能などを取り上げました。半数近くの参加者が名古屋以西からの参加でしたが、宇賀治正朋先生(神奈川大学)をはじめ 3 名の方に新しく会員になって頂きました。

「第 6 回コンピュータによる英語研究の講習会」

大東文化大学の招きで来日された Paul Rayson 氏(ランカスター大学、UCREL 研究員)を東支部でもお招きし、平成 14 年 2 月 23 日(土)午後、大東文化大学板橋校舎において、大学教員、大学院生、学部生対象の講演会とワークショップを開催しました。講演会では BNC の編纂とタグ付けソフトの CLAWS についてお話し頂き、ワークショップではタグ付けの実習を行いました。今回は、日程の都合で *Newletter* ではお知らせできませんでしたが、それでも JAECs-ML と東支部のホームページに掲載した結果、14 名の参加がありました。

東支部では、来年度も引き続き上記のような活動を行う予定です。会員諸氏の御協力をお願いすると共にご参加をお待ちしております。

JAECs 東支部支部長
山崎俊次

6. 東支部主催の Aarts 先生講演会について

第 19 回大会でご講演を頂く Aarts 先生に、東京でも東支部主催の講演会を次の要領で開催します。

【主催】英語コーパス学会東支部

【講師】Jan Aarts (Professor Emeritus Nijmegen University)

【トピック】English corpora, their annotation and the type of grammatical analysis underlying it: their past, present and future use.

【日時】平成 14 年 4 月 23 日(火) 17:00

【場所】大東文化大学板橋校舎

【交通】都営地下鉄三田線西台駅下車徒歩 10 分、東武東上線東武練馬駅下車徒歩 20 分あるいは大東文化会館よりスクールバス

【申し込み・問い合わせ】

Fax: 03-5399-7373 (山崎宛明記)

Aarts 先生には、大阪の大会とは違ったテーマでお話頂けるようお願いしてあります。大会にご出席の会員の皆様も是非ご参加下さい。また、コーパス言語学に興味をお持ちの方がいましたら是非お誘い下さい。

7. 新入会員紹介

(個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開していません。郵送されるニューズレターをご覧ください。)

JAECs Newsletter No. 35 発行以降の新入会員の方は次の通りです(3月10日現在、敬称略)

沖田 知子(大阪大学)

E-mail:

このほか新年度から入会希望の方が数名おりますが、この方々は新しい名簿に掲載致します。

8. 名簿訂正のお願い

(個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開していません。郵送されるニューズレターをご覧ください。)

JAECs Newsletter No. 33 と共にお送り致しました今年度の会員名簿の記載内容に誤りや、変更がございます。以下のご訂正下さい。事務局では、会員名簿のできる限り正確な管理に努めております。誤りや変更がございましたら事務局までご一報下さい。

改姓、所属、住所、電話番号、E-mail アドレスの変更

加野(木村) まきみ(文化女子大学室蘭短期大学)

E-mail:

所属の変更

吉野 貴好(高崎健康福祉大学)

E-mail アドレスの変更

衣笠 忠司

吉村 耕治

9. 事務局から

会費納入のお願い

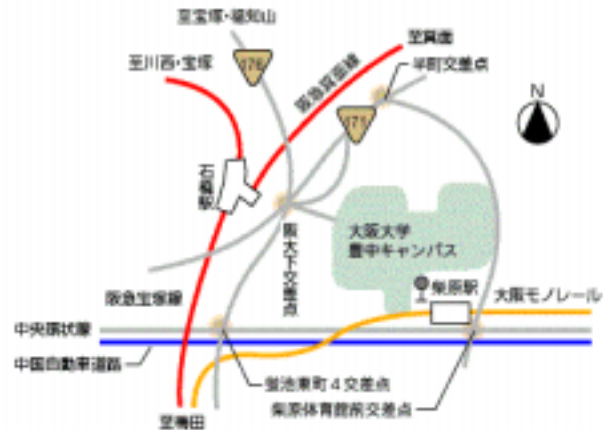
4月20日大会当日の受付は混雑が予想されますので、2002年度会費(一般5,000円、学生4,000円)はできれば郵便振替でお納め下さい。納入用の振替用紙を同封致します。その際、郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきますが、ご了承下さい。

2001年度会費未納の方は、2002年度分と合わせてお納めください(振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦ください。2年続けて会費未納の場合、JAECs Newsletter等の送付を中止させていただきます。住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添えください。

大阪大学豊中キャンパスへのアクセスについて

第19回大会の会場である大阪大学言語文化研究科はJAECs発祥の地で、何度か大会も開催されてい

ますが、新しい会員もいますので、改めて簡単なアクセスマップを掲載しておきます。豊中キャンパスの言語文化研究科までは、阪急宝塚線石橋駅または大阪モノレール柴原駅よりいずれも徒歩15分です。



その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊圖書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せください。

FORUM

何故 'hir' が 'his' になった

大手前大学 和田 章

Helsinki Corpus [HC]の操作ができれば、疑問はすぐ解けたものを、ある用例の代名詞 his は hir (= her)ではないかと右往左往したまどろっこしい石器時代的な話である。反面英語教師の能率の悪さをお笑いあれ。ことの起こりは、Roger Lass, ed., *The Cambridge History of the English Language*, Vol. III: 1476-1776 (Cambridge: Cambridge UP, 1999) [CHEL III と略記]の Chapter 14 Syntax の用例第 518 番である(CHEL III, p. 281)。

この章担当の Matti Rissanen 教授は「英語の最も初期の段階では、等位節と従属節の区別は今日ほど明確ではなかった」と述べ、and が条件/譲歩を表す例の説明へと向かい、いくつかの例証のなかに次の例を挙げている。

(518) He shall go without his *and* [= even if] he were my brother.

([HC] Udall I.ii)

徳島大学 中村 純作

E-mail:

引用の問題は、‘without his’ではなくて、‘without hir [= her]’ではないだろうかという疑問である。「たとえ奴が兄弟だとしても、彼女を渡してなるか」という意味ではなかろうか。事実 *OED*, *and*, C2. Concessive: ‘Even if,’ passing into ‘although.’ の第4例は次の通りである。

a1553 UDALL *Royster D. I.ii*, He shall go without hir and he were my brother.

同じく *World’s Classics* 版も ‘without her’ である。

Roister Doister. He shall go without her, an he were my brother.

—*Roister Doister* I.ii. 92. Frederick S. Boas, ed., *Five Pre-Shakespearean Comedies* [Early Tudor Period] (London: Oxford UP, 1923) p. 122.

Udall, *Roister Doister* の標準版を持っていないので、Udall 研究家の久屋孝夫教授（西南学院大学）を煩わせて御教示を仰いだところ、

R. Royster. He shall goe without hir, and he were my brother.

—Nicholas Udall, *Roister Doister*, <8> <A 4v> From Eton copy. Ed. by G. Scheurweghs. 1939. Materials for the Study of the Old English Drama, Ser. 2. Ed. de Vocht. Louvain, Vol. 16.

であることがわかり、久屋教授も ‘without his’ の読みには疑問を呈された。

ここで又 Rissanen 教授の用例にもどると、これは HC からの引用である。そこで、そもそも HC で ‘without his’ であるのか、それとも *CHEL III* に転写されてそうになったのか、HC を扱わない私には判別できなかった。

このことを、たまたま今井光規教授（大阪大学）にお会いした機会に、お話ししたところ、早速に HC を検索してくださり HC でも ‘without hir’ であるとのお知らせをいただいた。西は福岡、東は大阪の研究者を煩わせ、お陰で ‘without his’ は *CHEL III* のどこかの段階で入り込んだことがわかった。しかし何が「彼女を」(‘hir’)「彼のもの」(‘his’)にしたかは不明のままではある。賢いワープロが気を利かせ過ぎて hir を弾き his に読み替えるシグナルを出し、誰かがうっかり乗せられたのだろうか。電子コーパスから取り込んだ引用でも何かのはずみで誤植につながるとは溜息ものである。

新刊・近刊情報

本学会会員内田充美さんの博士論文の改訂版である *Causal Relations and Clause Linkage Consequential Participle Clauses and Their Use* (邦題『分詞構文の認知・機能言語学的研究 因果関係と接続構造』)がこの2月に大阪大学出版会より刊行されました。同出版会の図書目録には「英語とフランス語の現在分詞構文の分詞節のもつ機能に関する新知見。一見、例外的と見えた構文が、実は人間の認知の流れに沿った節の接続方法が使用されていることをさまざまなコーパスから得られた実例を分析し、明らかにしている。」との紹介があり、目次によりますと次のような構成になっています。

【Contents】

1. Introduction
2. Review of Major Current Studies
3. Preliminary Surveys
4. Information Structure
5. Structural and Semantic Properties of Clause Linkage
6. Toward a Unified Account of Phenomena
7. Consequential Participle Clauses in French
8. Concluding Remarks

菊判・上製で266ページの労作です。統語論、意味論、パラレルコーパスなどに興味をお持ちの方は、是非ご一読下さい。本体価格6,000円（税別）です。

また、上記第19回大会におけるAarts先生の講演に関連して簡単に触れましたが、本学会前会長齊藤俊雄先生（大東文化大学）を中心に、2年がかりで編集作業を進めてきました *English Corpus Linguistics in Japan* がオランダの出版社Editions Rodopiより3月末に刊行されることになっております。Aarts先生が編集主幹の一人であるLanguage and Computersシリーズの第38巻として、日本の英語コーパス言語学の成果を世界に向けて発信することを目的に、JAECSの先生方にご執筆頂いた20篇の論文が次の4つのセクションに収録されております。

- I. Corpus-Based Studies in Contemporary English
- II. Historical and Diachronic Studies of English
- III. English Corpora and English Language Teaching
- IV. Software for Analyzing Corpora

クロス版、340ページで価格は70ユーロ（約7,900円）です。クロス版のみですので価格は高めですが、こちらもご一読下さい。

なお、大会当日に有志が会場の一部をお借りして販売する手はずを整えております。Rodopiと交渉し

て、JAECS 会員には定価の 3 割引という特典が
つきました。

英語コーパス学会 Newsletter No. 37

May 30, 2002

■会長: 今井 光規
■事務局: 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室
■TEL: 088-656-7129 ■郵便振替口座: 00940-5-250586 (英語コーパス学会)
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: jun@ias.tokushima-u.ac.jp

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

1. 第 19 回大会報告

英語コーパス学会第 19 回大会は、4 月 20 日(土)に、大阪大学言語文化研究科で開催されました。春の大会はいつも満開の花水木の時期に開催されていますが、今年は早咲きだった花水木がまだ残っている待兼山キャンパスを久々に訪れました。当日は天候にも恵まれ、事務局の調べでは当日会員、新入会員を含め 100 名以上の出席がありました。

恒例になっております午前中のワークショップは、「BNC 検索入門」と題して事務局の中村純作(徳島大学)を中心に、投野由紀夫先生(明海大学)のお手伝いを頂きながら、罵り言葉“shit”のジャンル別、性別などによる複合検索の方法を、BNC Sampler と付属の検索ソフト SARA を利用して行いました。BNC Sampler の話し言葉の内、日常会話ではこの言葉が圧倒的に女性に多用されている事実は、興味深いものでした。30 名の募集人員でしたが、コンピュータに余裕がありましたので、52 名の方に参加頂きました。ワークショップの参加者はこのところいつも 50 名を上回っていますので、このような新しい会員を対象にしたコーパス検索の入門的なワークショップは今後も継続していくつもりです。

午後の大会では、今井光規会長(摂南大学)の挨拶の後、年次総会が開かれました。議長を関西地区から八木克正先生(関西学院大学)にお願いし、平成 13 年度の決算と平成 14 年度の予算をお認め頂きました。大会に出席でなかった会員諸氏には、その内容と、学会会計の監査を担当頂いております西村道信先生(追手門大学)の監査報告の写しを同封いたします。ご確認下さい。

今大会では研究発表 2 セッションと特別講演を準備しました。研究発表第 1 セッションには小原平先生(東京慈恵会医科大学)の「The Paston Letters の XML 版コーパスの作成とその課題・問題点」と高橋薫先生(豊田工業高等専門学校)、山下淳子先生(名古屋大学)、伊藤彰浩先生(愛知学院大学)による共同研究「応用言語学的視点による英語コーパスの解析」の 2 件をお願いしました。続いて第 2

セッションでは石川慎一郎先生(広島国際大学)の「D.H.ロレンス詩におけるイメージの展開: 作品コーパスの構成語彙分析に基づく研究」と渡部眞一郎先生(大阪大学)の「押韻俗語表現の特徴」の 2 件のご発表をお願いいたしました。

今回は、コーパスの編纂に関連する発表が 3 件、既存のコーパスの内ワークショップでも取り上げられている BNC World Edition を使った研究が 1 件、史的研究や、社会言語学的、統語論的な観点に数理的な分析を加えた研究、文学作品やある特殊な表現に焦点を当てた研究など多彩で、それぞれ興味深いご発表でした。

今大会を締めくくる特別講演では、Nijmegen 大学名誉教授の Jan Aarts 先生をお招きして、“Corpus Linguistics: Past, Present and Future”と題した講演をお願いいたしました。Aarts 先生はコーパス言語学界の最長老の一人です。まさに彼の経歴がコーパス言語学の歴史と言っても過言ではありませんが、この講演では、その Aarts 先生から、コーパス言語学の歴史と将来にわたる可能性についてお聞きすることができました。できれば、今後 Aarts 先生にお願いして、この講演の要旨を会誌第 10 号にご投稿願えればと考えております。大会にご出席頂けなかった会員諸氏には、大いに参考になるものと思いますので、ご期待下さい。

大会終了後の懇親会には 40 名を越す会員に出席して頂きました。家入葉子先生(京都大学)に司会をお願いし、会長挨拶、乾杯のあと、会員同士の交流と情報交換で大いに盛り上がりました。この懇親会には Aarts 先生ご夫妻もお招きし、ご挨拶を頂きました。席上、前日の運営委員会でお認め頂いた名誉会員証を Aarts 先生にお渡しする予定でしたが、事務局のミスで、後日お渡しすることになりました。ただ、折角ご本人が出席されているので、事務局のミスをご披露した上で、一同が爆笑する中、一応贈呈式を行い、会長よりミスのあった会員証をお渡ししました。正規の会員証は改めて事務局よりお渡しいたします。名古屋で開かれる秋の 10 周年記念大会での再会を事務局よりお願いして、8 時前に全ての大会行事が終了いたしました。

阪大言語文化研究科での久々の大会でしたが、無事、成功裏に終わることができました。これも、田畑智司先生を中心に、堀井祐介先生、遠藤裕昭先生、ご発表を頂いた渡部眞一郎先生の阪大言文の先生方のお力添えがあったことでした。この紙上を借りて厚くお礼申し上げます。また、言語文化研究科の院生諸君にも、会場準備、受付などのお手伝いを頂きました。重ねてお礼申し上げます。

2. 人事に関する決定事項について

大会前日の4月19日午後6時より開かれた運営委員会において人事案件がいくつか承認されました。まず、一昨年、新しく運営委員をお引き受け頂きました新井洋一先生(中央大学)、岡田毅先生(山形大学)、許斐慧二先生(九州工業大学)、塚本聡先生(日本大学)の4名の先生方の任期が本年3月で終了いたしました。許斐先生は一身上のご都合ということで、退任のご希望が了承されましたが、他の3名の先生方には引き続き運営委員をお引き受け頂くことになりました。許斐先生には1期だけの短い期間でしたが、お世話になりました。今後とも会員としてお力添えを頂きたいと思っております。なお、後任につきましては、できれば九州地区からどなたかをお願いしたいと思っております。

事務局の中村も2期目の4年が過ぎ、後任をどなたかをお願いしようと思って、個人的に交渉を始めましたが、了承を得られなかったり、多忙でご相談する機会を作れなかったりで、今回の運営委員会になってしまいました。そこで、少なくとも今井会長の1期目の残り1年を続投することで、ご了承を頂きました。多忙で、少々疲れ気味です。どなたか、事務局を引き継いでいただける方をご推薦頂ければと思っております。自薦でも勿論結構ですので、よろしく願いいたします。

引き続き、今回の大会で講演を頂いたJan Aarts先生と、会誌第9号に投稿を頂いたKarin Aijmer先生に名誉会員になっていただくことが了承されました。両先生とも快諾を頂きましたので、Aarts先生に6号、Aijmer先生には7号の名誉会員証をお届けします。

会誌編集委員会委員長の深谷輝彦先生(椋山女学園大学)にも続いて1期お世話願うことになりました。会誌の編集は大変な作業ですし、深谷先生からは公務多忙ということで、退任のご希望をお伺いしておりましたが、運営委員会のたっただけのお願いということで、了承していただきました。よろしく願いいたします。

編集委員の西納春雄先生(同志社大学)と吉村由佳先生(慶応義塾大学非常勤)には、三期連続、

6年間にわたり編集委員をお引き受けいただいております。委員長の深谷先生からも両先生にはすでに十分ご貢献頂いたので、この際退任をお認め頂きたいとのご意向を伺い、交代していただくことが了承されました。西納先生、吉村先生、大変な役職を6年間もお引き受け頂きご苦労様でした。厚く感謝いたします。

3. 会誌『英語コーパス研究』第9号について

大阪大学言語文化研究科における第19回大会に出席された会員には大会当日、また大会に出席できなかった会員の皆様にも、このNewsletterとともに『英語コーパス研究』第9号が届いているかと存じます。

第9号巻頭にはConversational Routines in Englishなどの著作で知られるKarin Aijmer先生(Göteborg University, Sweden)からご寄稿いただいた論文を掲載しています。パラレルコーパスを用いた談話標識研究の可能性を探っています。次に清水眞、村田真樹先生の論文は、英語の再帰代名詞が対応する日本語コーパスでどのように実現しているかを論じています。第17回大会のシンポジウム「日英パラレルコーパスでどのような英語研究が可能か」を修正、発展させた紙上シンポジウムでは、西村公正先生を中心とする関西外大パラレルコーパス研究グループの先生方に、パラレルコーパス研究のおもしろさを紹介してもらいました。最後に山崎俊次先生には昨年度のICAMEについてご報告いただきました。

論文を投稿された執筆者の方々に感謝申し上げるとともに、審査の過程で査読にご協力いただいた先生方、編集の様々な場面で援助を惜しまれなかった西納春雄、吉村由佳、山崎俊次、保坂道雄編集委員、Aijmer先生との橋渡しをしていただいた今井光規先生、編集上困ったときにいつも助け船をだしていただいた事務局の中村純作先生には、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。

深谷輝彦(椋山女学園大学)
『英語コーパス研究』編集委員会

4. 会誌『英語コーパス研究』第10号について

『英語コーパス研究』第10号の原稿を次の要領で募集いたします。会員各位の積極的な投稿をお待ちしております。

【原稿の種類】

1. 英語コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた「研究論文」、「研究ノート」

2. 「コーパス紹介」、「ソフト紹介」、「書評」、「海外レポート」、「論文紹介」などの各種情報あるいは紹介原稿

【投稿申込締切】2002年7月1日(月)

(氏名、所属、原稿の種類とタイトルを事務局までお知らせください。)

【原稿提出締切】2002年9月30日(月)

(ハードコピー4部およびフロッピーディスクを提出。)

【原稿提出先】

〒464-0802 名古屋市千種区星ヶ丘元町 17-3

椋山女学園大学文学部

深谷輝彦宛

【原稿の長さ】

1. 研究論文

英文 70 ストローク×35 行×15 枚以内

和文 35 字×30 行×15 枚以内

(いずれも Abstract (英文)、注、書誌を含む。)

2. 研究ノートは 10 枚以下、その他は研究論文の半分以下。

【書式】

第 9 号所収の論文を参考にしてください。詳細は学会ホームページ (<http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/Guidelines/index.html>) でご確認ください。

【採用通知】11 月頃

【刊行予定】2003 年 3 月 25 日

【問い合わせ先】

〒464-0802 名古屋市千種区星ヶ丘元町 17-3

椋山女学園大学文学部

深谷輝彦

TEL: 052-781-5408 (ダイヤルイン)

052-781-1186 (大学代表)

FAX: 052-781-6210

『英語コーパス研究』編集委員会

なお、現在まで編集委員会に関する成文化された規則がないまま会誌を発行してきましたが、編集委員会の組織・構成、委員の任期、審査方法なども含めた『英語コーパス研究』編集委員会内規の制定に向けて、目下検討中です。

6. 第 20 回大会の日程と研究発表募集について

2002 年度の秋の大会(第 20 回大会)は 10 月 5 日(土)と 6 日(日)の 2 日間にわたって名古屋大学国際言語文化研究科(〒464-8601 名古屋市千種区不老町 1 : 052-789-5312(研究科事務係)URL: <http://www.nagoya-u.ac.jp>) で開催される運びとなりました。ご承知の通り、この大会は学会設立 10 周年を

記念する特別な意味を持っておりますので、2 日間の日程で、内容も充実したものにしよう会場校の大会準備委員である滝沢直宏先生を始め、大心力先生、杉浦正利先生他のご協力を得つつ、準備に取りかかっております。名古屋での大会は椋山女学園大学以来 5 年目の開催ですが、是非、今から出張の予定に組み込んで頂ければと思っております。秋たけなわの名古屋でお会いできることを会場校準備委員、事務局ともどもお待ちしております。

大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、郵便または電子メールのいずれかで事務局にお申し込みください。今回はこの *Newsletter* の発送が遅くなりましたので、時間的にあまり余裕がありませんがよろしくお願いたします。

【応募締切】2002 年 6 月 30 日(日)

【提出物】題目と要旨(800~1200 字程度)

【内容】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

【採否決定】2002 年 7 月中旬(予定)

【その他】1. 時間 発表 25 分+質疑応答 5 分
(応募数により短くなることもある)

2. 資格 本学会会員であること

ワークショップ、シンポジウム、記念講演会などを企画する予定です。アイデアをお寄せください。

今年度春の大会時の運営委員会で、来年春の第 21 回大会は関西外国語大学短期大学部で、秋の第 22 回大会は明海大学で開催されることに決定いたしました。会場校の先生方にはお世話になりますが、よろしくお願いたします。なお、詳しい日程などはその都度、*Newsletter* でお知らせいたします。

7. 平成 13 年度の東支部の活動について

JAECs Newsletter No.36 以降の東支部の活動についてご報告いたします。

「第 7 回コンピュータによる英語研究の講習会」大阪大学で開催された第 19 回大会で特別講演された Nijmegen 大学名誉教授 Jan Aarts 先生を東支部でお招きして、平成 14 年 4 月 23 日(火)午後、大東文化大学板橋校舎で大学生、大学院生、教員、そして英語コーパス学会員を対象に講演会を開催しました。タイトルは“The Annotation of Corpora and Some Related Methodological Issues”で、まずコーパ

スを利用した研究の目的や研究方法、コーパス言語学における annotation について講演をしてもらいました。さらに Nijmegen 大学で開発した TOSCA (Tools for Syntactic Corpus Analysis) の紹介や parsed corpus について丁寧にお話をしてもらいました。特に初めてコーパスにふれた学部生がとても熱心に聴講していました。

今年度の活動予定

東支部では、今年度も新会員発掘の目的で、学部生、大学院生、さらにコーパス言語学に対して比較的最近接した研究者を対象に、検索ソフトの基本的な利用方法、コーパス言語学の初歩などをゆっくり丁寧に講習し、初心者が気軽に参加できるような講習会を開催していきたいと思っています。さらに、現会員の既存ソフトへの習熟を目標に Wordsmith や BNC 利用のための Sara の使用方をじっくり実習したいとも考えています。講習会についての要望や、内容についてご希望があればどしどしご連絡下さい。

東支部支部長 山崎俊次 (大東文化大学)

8. JAECS10 周年記念事業について

この *Newsletter* を通じてすでに何度もお知らせしていますように、今年度は学会創立 10 周年にあたりますので、3 つの事業が進行中です。第 20 回大会を 10 周年記念大会として開催することは、すでに上で述べましたが、10 周年記念論文集と学会賞に関して簡単にご報告いたします。

10 周年記念論文集

現在のところ 20 名の方から仮題と執筆方針を提出して頂いております。ご応募頂いた会員には、編集委員会を中心に検討を加え、運営委員会です承された執筆要領と Template をすでにお送りしておりますが、本年 9 月末日の論文提出締切りまで投稿は可能です。できる限り優れた論文を精選した論文集にしたいと考えておりますので、まだ、申し込みでない会員諸氏からもご応募を期待しております。投稿規程、執筆要領、Template 等は事務局にご請求下さい。

学会賞

秋の 10 周年記念大会での学会賞第 1 号の誕生を目指して、本年当初より学会賞の推薦を受け付けておりましたが、3 月 31 日の締切りまでに事務局宛て 2 件のご推薦を頂きました。早速、学会賞審査委員会の方へ、推薦理由書と現物をお送りして

おります。秋の大会で審査結果を発表できることを目標に、現在、審査委員会で審査の最中です。

春の大会の総会では、「推薦締切り日である 3 月 31 日までに推薦のなかったものでも、事務局あるいは審査委員の目にとまった優れた業績があれば審査対象とする」とご報告いたしましたが、他薦、自薦いずれも可能ですし、当該年度の業績に限ったことではありませんので、形式的ではありますが「3 月 31 日までに推薦のあったものに限り、審査の対象とする」こととさせていただきます。お詫びとともにご確認をお願いいたします。

来年度の学会賞に関しましては、来年 3 月 31 日が推薦の締切りとなります。本年度の業績に限りませんので、どしどしご推薦頂ければ幸いです。推薦理由書はホームページに掲載予定ですが、事務局にご請求下さい。

9. JAECS-ML について

ご承知のように、JAECS-ML を園田勝英先生(北海道大学)に立ち上げていただいております。事務局としましては、将来的にはこの *Newsletter* を初め、大会関連のお知らせ等を ML を通じて配信し、ペーパーレス化することを念頭においております。そこで、この 3 月末に会員名簿に登録されている E-mail Address をもとに JAECS-ML への参加の確認を、会員諸氏をお願いいたしましたところ、37 名を数える会員のアドレスから宛先不明でメールが戻ってきました。加えて、もともとアドレスを登録されていない会員が 30 名ほどおりますので、60 名以上の方が ML から落ちていることとなります。

事務局では、最新の会員名簿を園田先生にお送りし、この問題に対処しようと思っております。そこで、同封しております本年度の会員名簿でご自分の E-mail Address をご確認いただければと思っております。誤りのある場合には、或いは E-mail address をお持ちで名簿に登録されていない場合には、事務局までご一報下さい。どうしても ML に参加したくないと思いの会員以外はご参加いただければ幸いです。

10. 名簿のご確認のお願い

新入会員も含めて、5 月 20 日現在の会員名簿をお届けします。事務局では、できるだけ正確を記しているつもりですが、誤りが多々あるようです。是非一度ご確認の上、誤りがございましたらお知らせ下さい。特に、今回は上で述べました ML に関連して E-mail address のチェックをお願いいたします。

11. 事務局から

会費納入のお願い

2002 年度会費(一般 5,000 円、学生 4,000 円)未納の方には郵便振替用紙を同封いたしますのでお納め下さい。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

2001 年度会費未納の方は、2002 年度分と合わせてお納め下さい(振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦下さい。2 年続けて会費未納の場合、*JAECs Newsletter* 等の送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添え下さい。

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありませんでしたら、どしどしご提案下さい。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書を紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですでお寄せ下さい。

FORUM

ツールを開発しよう

大阪女子大学
橋本喜代太

コーパスを利用する場合、その編纂、加工、検索等の活用などあらゆる局面でツールとしてのプログラムが必要になってきます。ツールの有無、優劣がそのまま研究の質に関ってくることも多々あります。

ツールには、コーパス処理に限定されない汎用的なもの、ある程度コーパス処理に特化した専用のものがあるのも皆さんご存知の通りです。前者の典型としては sed、awk、perl といった Unix 由来のコマンドラインツールがありますし、うまく使えばかなりの統計処理ができる Excel もそうですね。全文検索プログラムの namazu や Suffray もこの類に入るかもしれません。一方、専用のものとしては、KWIC コンコーダンサ、茶筌や Brill Tagger のような形態素解析プログラ

ム、その他さまざまな単機能ツールを挙げることができます。

この辺までは本学会員であれば誰でもご存知のことです。ところが、高度なものは Unix 系のツールが多い、よく使う KWIC コンコーダンサ等も有償のものが多く、インターネットに慣れていない研究者だと入手そのものに困難がある、といったさまざまな理由が災いして、言語研究者の間でこうしたツールが広く普及して活用されているとは言いがたい状況が続いていると感じるのは私だけではないでしょう。基礎的なツールだけでも誰もが手軽に共有でき、利用するに当たっての学習も最低限ですむ、そうした状況にならなければコーパスを利用した研究が今後も繁栄していくのは難しいのではないかと、という危惧も若造ながら抱えています。

とは言え、嘆いているだけではしょうがないので、昨年度から様々なツールを開発する試みを始めています。私自身が開発するというのではなく(それもありませんが)、何人かの工学系の研究者に協力してもらい、公的な助成を活用して専門のプログラマなどに開発を委託しよう、というものです。第 1 弾として今年度はそこその機能を持った KWIC コンコーダンサとその周辺を作成します。生テキスト、タグ付きの両方のコーパスに対応し、品詞タグのあるコーパスの場合は品詞の組み合わせで検索するだけでなく、結果表示でも品詞タグが整形されて表示される、そういったものになる予定です。品詞タグは多種ありますが、これについてはフィルタツールを用意して、内部的に XML 形式に統一しますので、タグセットの異なる複数のコーパスを一括して検索できるようにもします。完成後は完全に無償で提供し、ソースも公開することになっています。

さて、皆さんにお願いが 2 つあります。1 つは上記の KWIC コンコーダンサ開発のご協力をいただきたい、ということです。現在の予定ではだいたい夏頃に 版(仕様も変更される可能性のある初期版) 秋に 版(仕様はほぼ決定され、細かな不具合は残っている出荷前版)ができます。版は混乱を避けるためあまり広範囲には公開しないことになると思いますが、版はできるだけ多くの人にテストをお願いしたいのです。具体的には本学会のメーリングリスト等でアナウンスしますので、ご協力をお願いします。

いま 1 つは今後の諸ツール開発のご協力をいただきたい、というものです。これにはさまざまな協力があります。必要なツールを提供していただくというのもあれば、仕様決定に参加する、検証していただく、ということもあります。そして何

より資金援助です。と言ってもポケットマネーを要請するものではありません（篤志でそうした援助があれば大歓迎ですが）。研究者全体の共有ツールを開発するつもりですから、公的な助成を活用していきたいのです。単機能のツールであれば、科研費の謝金で充当できるものもたくさんあります。そうしたツールを組み合わせるフロントエンドのインターフェイスさえあれば統合的なコーパスツールアプリケーションに育てることもさほど難しくありません。また、人文系の研究者が使えるレベルの形態素解析プログラムを開発していくには解析用辞書の整備など多くの人手を要するものもあります。従来から自分の研究にまつわるものはほとんど私費でまかなうという傾向が人文系にはありますが、それではどうしても限界がありますし、やむを得ず自作してもなかなか多くの研究者が手軽に利用できるものにならないことが多いものです。大きめの共同研究プロジェクトを立ち上げる、個々のツールを分担して開発していく、さまざまな手法が考えられます。それを一箇所でまとめて提供できるようになれば、研究そのものも飛躍的に向上し得るのではないかと思います。今後のコーパス研究発展のためにぜひご考慮願えませんでしょうか？

ICAME2002 開催せまる

徳島大学
中村純作

今年度の ICAME 大会はスウェーデンのイエテボリで、会誌 9 号に寄稿いただき、この春の大会で本学会名誉会員になられたイエテボリ大学教授 Karin Aijmer 先生が主催して 5 月 22 日から 26 日

までの 5 日間開催されます。大会テーマは “theory and use of English language corpora” で、基調講演には John Du Bois、Helge Dyvik、Michael Halliday、Michael Hoey、Geoffrey Leech、John Sinclair の 6 名の著名なコーパス関連の研究者が招かれています。本学会名誉会員の Geoffrey Leech 先生には、“Linking the theoretical and descriptive/observational levels of corpus linguistics” と題した講演が予定されているほか、Michael Halliday、John Sinclair はそれぞれ “The spoken language corpus at the foundation of grammatics,” “Lexico-grammar and corpora” のタイトルで講演を行う予定です。

6 名の基調講演は 1 時間の時間が与えられ、全体会議として行われますが、その他に 3 つのセッションに分けられた 30 分の研究発表が 45 件、ポスターセッションが 9 件、ソフトウェア・デモンストレーションが 5 件、Work in Progress と呼ばれる短い発表が 16 件予定されています。例年のように、4 泊 5 日でほとんどの出席者が何らかの形で発表するという非常にきつい会議ですが、基調講演者や他の参加者の顔ぶれから相当収穫が期待できそうです。日本からは金子朝子先生（昭和女子大）、高橋薫先生（豊田高専）、山崎俊次先生（大東文化大学）、山下淳子先生（名古屋大学）と事務局の中村が出席します。いずれも JAECS のメンバーです。

この短報を書いている時点ではまだ大会は開かれていませんが、*Newsletter* がお手元に届く頃には、すでに大会は終了しています。事務局と事務局を手伝っていただいている高橋先生がこの会議に出かけることもあって、*Newsletter* の発送が大幅に遅れることになり、ご迷惑をおかけしています。次号 *Newsletter* には出席者のどなたかに大会の成果や雰囲気についてご報告いただこうと思っています。

英語コーパス学会 Newsletter No. 38

Aug. 25, 2002

■会長: 今井 光規
■事務局: 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室
■TEL: 088-656-7129 ■郵便番号: 00940-5-250586 (英語コーパス学会)
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: jun@ias.tokushima-u.ac.jp

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

1. 第20回大会のご案内

英語コーパス学会第20回大会は、10月5日(土)・6日(日)の両日、名古屋大学大学院国際開発研究科(〒464-8601 名古屋市中種区不老町。「事務局より」の欄に簡単なアクセス方法)で開催されるはこびとなりました。会場校のご好意と大会準備委員である滝沢直宏先生をはじめ名古屋大学の杉浦正利、大名力、山下淳子、大室剛志、木下徹の諸先生方のご尽力に感謝致します。

本大会は昨年来より何度かこの Newsletter でお知らせしていますように、JAECS 創立10周年を記念する特別な意味を持っています。運営委員会と事務局で大枠を決定した後、大会をお引き受け頂いた名古屋大学の先生方と2度にわたる会合を開き、10周年を記念するのにふさわしい大会にするよう努力を重ねてまいりました。今回は初めて「わが国のコーパス言語学の成果と展望」という大会テーマを設定、このテーマに沿ったシンポジウムも2本準備しました。研究発表も従来のコーパス言語学中心のもの、学習者コーパスや英語教育への応用に関する2つの平行セッションを設けました。学会創設以来初めての2日にわたる開催ですが、ワークショップも2日にわたって行われます。

大会プログラムとレジュメを同封致します。従来型の研究発表には松野和子さん(名古屋大学大学院生)の「アメリカ英語における国名の使用頻度に基づく『認知的世界地図』構築の試み」、家口美智子先生(摂南大学)、家入葉子先生(京都大学)、岡部浩子さん(神戸市外国語大学大学院生)による共同研究「アカデミックスピーカーの発話語数のジェンダー差 Corpus of Spoken Profession American-English の分析から」、田中泉さん(ランカスター大学共同研究員)の「文の直接構成素レベルでの解析済みコーパスの比較」と、高見敏子先生(北海道大学)の「文体差に関わる語彙の特定 Bank of English の『大衆紙語』と『高級紙語』の形容詞」の4件の研究発表をお願いしました。Brown、Frown、CSPAЕ、Hansard コーパス、AP コーパス、Bank of English 等の様々なコーパスを対象に、発表者それぞれの切り口でのユニークな研究が並んでいます。

「学習者コーパスとコーパスの英語教育への応用」を中心とした研究発表第2室では、金子朝子先生(昭和女子大学)の「国際学習者コーパス ICLE/LINDSEI 最新の動向」、鈴木千鶴子先生(長崎純心大学)、吉原将太先生(同)、渡辺洋子先生(同)の共同研究「英語学習者コーパス分析法の開発から電子掲示板の改良へ」、小林多佳子先生(昭和女子大学)の「“Maybe,” “Perhaps,” “Probably” は日本人英語学習者の書き言葉でどのように使用されているか 学習者コーパスを利用したアプローチ」、野口ジュディー先生(武庫川女子大学)の「英語専門教育におけるミニコーポラの有効性」の4件の研究発表が行われます。このセッションは、昨年度、昭和女子大学の金子朝子先生を中心に行われていた学習者コーパスのワークショップに関わっておられた本学会の投野由紀夫先生(明海大学)と朝尾幸次郎先生(東海大学)のお力添えで実現しました。この大会ではワークショップの参加者の中から、本学会のメンバーとして5名ご発表頂いております。今後とも連絡を取りながら、協力してこのような平行セッションが実現できればと思っております。

シンポジウムは、「わが国のコーパス言語学の成果と展望」という大会テーマにそった研究と教育の両面で1本ずつ準備しました。研究面に関しては赤野一郎先生(京都外国語大学)を中心に「日本における英語コーパス言語学の現状と展望」と題して準備頂きました。このタイトルが示すように、今日に至るわが国のコーパス言語学の主要な成果を概観する事によりコーパスが英語研究に如何に貢献したかを検証するとともに、今後の方向性を探ることを目的としています。語彙、構文、テキスト、英語史、辞書、英語教育の6つの領域について、それぞれ、司会の赤野一郎先生、深谷輝彦先生(椋山女学園大学)、田畑智司先生(大阪大学)、西村秀夫先生(山口大学)、井上永幸先生(徳島大学)、朝尾幸次郎先生(東海大学)に講師をお願いしております。

「コーパスを如何に効果的に教育に利用するか」については、ワークショップやシンポジウムの希望が前から事務局には寄せられていましたが、今回、八木克正先生(関西学院大学)をお願いして、シンポジウ

ムの形で実現することになりました。「コーパスを利用した英語教育と英語・英文学研究指導 実践報告と今後の可能性」と題し、「英語教育」、「英語研究（共時的視点から）」、「英語研究（通時的視点から）」、「文学研究」の4つの分野で、コーパスの果たす役割やその可能性を議論して頂きます。講師には、それぞれの分野を代表して、投野由紀夫先生（明海大学）、梅咲敦子先生（帝塚山大学）、大門正幸先生（中部大学）、石川慎一郎先生（広島国際大学）にお願いしました。我々の日頃の授業実践に役立つお話が聞けるものと思います。ご期待下さい。

これまで大会を締めくくる行事としてはシンポジウムあるいは特別講演の何れかを準備していましたが、今回は10周年記念で2日開催ということもあり、シンポジウムを2本用意した上で、特別講演で締めくくることにしました。過去10年間の名誉会員のリストを見ますとコーパスの世界では名だたる国際的研究者が名前を連ねております。ほとんどの先生方に特別講演をお願いしておりますが、今回はオスロ大学のStig Johansson先生のお名前がリストに加わる予定です。Johansson先生には“Corpus Linguistics: past, present, future”のタイトルでご講演頂くことになっております。会員諸氏もご承知の通り、Johansson先生はLOB Corpusの編纂者のお一人で、ベルゲン大学のKnut Hofland氏と共同で、LOB Corpusの語彙表の作成、そのBrown Corpusとの比較、さらに文法指標に基づいたレンマテーブルの作成などコーパス言語学草創期の重要な仕事をなさっています。最近ではBiberのLongman Grammar of Spoken and Written Englishの共著者のお一人として知られているほか、Norwegian-English Parallel Corpusを編纂し、この分野の草分け的な存在でもあります。たまたま、春の大会のJan Aarts先生の講演のタイトルと似たものになりましたが、Johansson先生ご自身の経験、研究に基づいた有意義なお話が聞けるものと思います。

恒例のワークショップは、これも2日開催ということで2コマ準備致しました。名古屋大学では昨年度より言語文化部と国際言語文化研究科の共催で「英語研究と英語教育のコーパス利用 UNIX, Perl, 統計と語法文法」と題した公開講座を行っております。これはコーパス関連の優秀な人材、豊かな資源を有する名古屋大学ならではのユニークな取り組みです。今回は、この内ほんの一部ではありますが、「正規表現によるテキスト検索」を取り上げ、初心者むけの「基礎編」(ワークショップ(1))と経験者を対象にした「応用編」(ワークショップ(2))を開講します。講師には大名力先生をお願いしております。UNIXやPerlなどの特別な知識は必要としません。参加御希望の方は、あらかじめ事務局宛てに、葉書あるいは電子メールでお申し込み下さい。ワークショップ(1)とワークショップ(2)の受付は別々に行っておりますので、

どちらを受講するかを明記して下さい。両方受講することも可能ですが、どちらも先着40名で締め切らせて頂きます。英語コーパス学会の会員であれば参加費は無料です(非会員の場合は当日会費1,000円)。

以上が大会プログラムの概要です。この他にも、恒例になっております懇親会が1日目の夜に開かれます。招待講演をお願いしたStig Johansson先生もお誘いしていますし、10周年という学会にとって記念すべき節目の大会をできるだけ多くの会員で祝いたいと思っております。是非ご参加下さい。従来、懇親会の申し込みは、受け付け時に行っておりますが、今回は、参加者の数がつかみかねますので、前もってメール或は葉書で事務局までお申し込み下さい。会費は4,000円を予定しております。(申し込み締切りなどに関しては「事務局より」の欄を参照)

学会創立10周年記念大会ということで準備に半年以上かかりました。2日にわたりますが、それでも時間的に余裕がありません。この勢いで次の節目を迎えたいものですが、取りあえず、秋の名古屋でお会いできることを会長、大会準備委員、事務局ともどもお待ちしております。

2. 『英語コーパス研究』第10号について

『英語コーパス研究』第10号(2003)の原稿を募集しましたところ、論文5件の申し込みを頂きました。その他に、特別寄稿として、春の大会で特別講演をして頂いたJan Aarts先生に講演要旨の執筆を依頼中です。また秋の大会では、本学会創立10周年記念大会ということでシンポジウムが2件開かれますので、できればこれらも収録できればと考えております。あと、論文あるいは研究ノートがもう数本、海外レポートも欲しいところです。最近、海外からお帰りになられた方がおいでになりましたら、是非、海外レポートにご応募下さい。さらに今年出たコーパス言語学入門書Meyer(2002)をご紹介下さる方を捜しております。9月末日までにご応募頂ければ、審査の対象となりますので、ぜひとも奮ってご応募下さい。お待ちしております。以下、募集要領を再掲致します。

[原稿の種類]

1. コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた「研究論文」、「研究ノート」
2. 「コーパス紹介」、「ソフト紹介」、「書評」、「海外レポート」その他コーパス研究に有益な情報

[論文の長さ]

1. 研究論文
和文 35字×30行×15枚以内、
英文 70ストローク×35行×15枚以内
(いずれもAbstract(英文)、注、書誌を含む)
2. 研究ノートは10枚以内、その他は研究論文の半分以内

[書式]

第9号所収の論文を参考にして下さい。詳細は学会ホームページをごらん下さい。

[原稿締切] 2002年9月30日(土)

[提出内容] ハードコピー4部提出、フロッピーディスクは査読終了後提出

[提出先]

〒464-0802 名古屋市千種区星ヶ丘元町17-3
椋山女学園大学文学部深谷輝彦研究室宛
Tel: 052-781-1186, Fax: 052-781-6210

[採否通知] 11月頃

[刊行予定] 2003年3月25日

『英語コーパス研究』編集委員長
深谷輝彦

3. 東支部活動報告

東支部では、先の *Newsletter* でもお知らせしたように、今年度も新会員発掘の目的で、学部生、大学院生、コーパス利用に興味を持つ研究者を対象に、検索ソフトの基本的な利用方法、コーパス言語学の初歩などに関する講習会を開催していきたいと思っています。今年度はすでに春の大会でお招きした Jan Aarts 先生を東支部でもお招きし、「第7回コンピュータによる英語研究の講習会」を4月23日(火)に開催しました。次回は、秋の大会にお招きしております Stig Johansson 先生を東支部でもお招きすることにしております。現時点では10月10日(木)又は11日(金)の夕方、大東文化大学板橋校舎でご講演を頂く予定です。講演タイトルは“The impact of corpora on the study of English grammar”です。講演内容には名古屋の20回大会とは異なるものをお願いしておりますので、大会にご出席の会員諸氏もご参集願えればと思っております。詳しい日程、場所などは決定次第 ML を通じてお知らせ致します。

JAECs 東支部支部長
山崎俊次

4. JAECs10 周年記念論文集について

JAECs10 周年記念論文集への投稿をお願いしておりますが、現在のところ23名の方から仮題と執筆方針を提出して頂きました。ご応募頂いた会員には、編集委員会を中心に検討を加え、運営委員会です承された執筆要領と Template をすでにお送りしておりますが、本年9月末日の論文提出締切りまで投稿は可能です。できる限り優れた論文を精選した論文集にしたいと考えておりますので、まだ、お申し込みでない会員諸氏からの応募を期待しております。投稿規程、執筆要領、Template 等は事務局にご請求下さい。その際、

タイトル(仮題)と簡単な執筆方針もお送り下さい。

5. マッティ・リッサネン名誉教授講演会開催のお知らせ

ヘルシンキ大学マッティ・リッサネン名誉教授が、本年11月に日本英語学会20周年記念事業のために来日されます。この機会に日本中世英語英文学会、英語コーパス学会および大阪大学の共催で下記のとおり講演会を開催いたすことになりました。ご出席下さいますようご案内申し上げます。

[講師] Matti Juhani RISSANEN, Professor Emeritus, University of Helsinki, Finland

[演題] Computerised corpora and the history of English: on the development of the prepositions indicating concession (*despite, in spite of, notwithstanding*) (コーパスの使い方の一例としてこれらの前置詞の発達を論じられます。)

[日時] 2002年11月22日(金) 午後5時30分~7時

[場所] 大阪大学大学院言語文化研究科2階会議室 (豊中市待兼山町1-8)

[問い合わせ・申込み先]

又は〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学国際言語文化学部 今井光規 宛

[世話人] 渡辺秀樹(大阪大学) 田畑智司(大阪大学) 今井光規(摂南大学)

講演の後、学内待兼山会館で懇親会を開きます。(参加費5,000円)講演、懇親会にご出席の方は上記申込み先へEメールかハガキで11月12日までに申し込み下さい。

会場までの道順: (1) 新大阪駅から地下鉄御堂筋線で千里中央行に乗車、千里中央で下車。大阪モノレール大阪空港行きに乗車、柴原駅下車、進行方向に徒歩10分で大阪大学正門。(2) 阪急梅田駅から宝塚線急行または特急に乗車、石橋駅下車。徒歩15分。

<講師のプロフィール>

リッサネン教授は、英語史研究およびコンピュータ・コーパスに基づく英語研究の世界的権威として知られている。近年目覚ましい発展を遂げているコーパス言語学の基礎を築いたヘルシンキ・コーパス編纂の責任者である。長年、ヘルシンキ大学英文科主任教授をつとめ、昨年から名誉教授となり、現在も多方面に活躍中である。*Neophilologische Mitteilungen* 誌の英語編集主幹、ICAME(中世・近代英語の国際コンピュータ・アーカイブ)の運営委員、大学英語教授国際学会(IAUPE)の理事、*NOWELE* 誌の編集顧問、その他多くの国際学術誌や学会の要職につき、ヨーロッパのフィロロジの伝統を守るとともに、コンピュータ・コーパスに基づく新しい英語研究の方法を確立・

実践している。

最近の著書に "Syntax", Roger Lass (ed.), *Cambridge History of the English Language*, III, Cambridge: C.U.P. (1999) や "Standardisation and the language of early statutes," Laura Wright (ed.), *The Development of Standard English: Theories, Descriptions, Conflicts*. Cambridge: C.U. P. (2000) などがある。

(世話人代表 今井光規)

6. 訃報

本学会会長瀬真理先生(静岡大学)が去る8月7日、肺癌でお亡くなりになりました。このことは、JAECS-MLで8月11日に配信されました齊藤俊雄先生(大東文化大学)の「哀悼」と題されたメールで会員諸氏もすでにご存知のことと思います。学会としても長瀬先生の功績をたたえ、哀悼の意を表わすため、齊藤先生の許可を得てここにMLの追悼文を転載させていただきます。

<長瀬真理先生のご逝去を悼む>

昨日の朝日新聞の夕刊を開いて、思わず「あっ」と声を出してしまいました。そこには長瀬真理先生の訃報がありました。コーパス言語学の面で学恩を受けた一人として思わず筆を取らせていただきました。

若い会員の方々はご存じないかも知れませんが、長瀬先生は、日本におけるコンピュータによる言語研究の草分けの一人です。

先生の大きな功績の一つは、Oxford Concordance ProgrammeのPC版Micro-OCP(MS-DOS用)の日本語への移植であろうと思います(沖田電子技研発売)(後にWindows版も同社から出た)。私や同年代に今で言う「コーパス言語学」を始めた者はみなご著書『コンピュータによる文章解析入門』(1986)のお世話になり、MS-DOS用のMicro-OCPの日本語版を使って、コーパスの研究を始めたものです。この日本語版がなかったら日本のコーパス研究はもっと遅れたことでしょう。

先生は情報処理学会で活躍されておられましたが、大阪大学で開催された英語コーパス研究会の第1回大会(1993)にわざわざ東京から駆けつけ、大変好意的な大会レポートを『人文学と情報処理』に書いてくださって、私をはじめ研究会創設に従事した者が感激するとともに大きな励ましになったのを思い出します。

新聞に「作成した『源氏物語』データベースは国際的に利用されている」とありますように、英語コーパス言語学以外の方面で活動されましたが、「JAECSがコーパス言語学では日本で一番進んでいる」と言って会員になっておられました。

55歳という若さでのご逝去されたのは、Micro-OCPでお世話になった者として、まことに残念です。

生前のJAECSへのご配慮を感謝し、心からご冥福をお祈り致します。合掌

齊藤 俊雄

7. 新入会員紹介

(個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開しておりません。郵送されるニューズレターをご覧ください。)

JAECS 会員名簿(2002年度版)発行以降の新入会員の方は次の通りです(8月20日現在、敬称略)

井上 亜依(関西学院大学S)
大前 智美(大阪大学S)
岡部 浩子(神戸市外国語大学S)
小林 多佳子(昭和女子大学)
鈴木 千鶴子(長崎純心大学)
中村 渉(電気通信大学)
福地 美奈子(金光大阪高等学校)
松野 和子(名古屋大学S)
家口 美智子(摂南大学)

8. 名簿訂正のお願い

(個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開しておりません。郵送されるニューズレターをご覧ください。)

JAECS Newsletter No. 37 と共にお送り致しました今年度の会員名簿の記載内容に誤りや、変更がございます。誤りについては事務局の不手際をお詫び致しますとともに、以下のようにご訂正下されば幸いです。事務局では、会員名簿のできる限り正確な管理に努めております。誤りや変更がございましたらご一報下さい。

住所、所属、電話番号の変更
秋山孝信(日本大学非常勤)
島津 美和子((株)東芝府中事業所)
氏名の訂正
宇賀治 正明 宇賀治 正朋
住所の訂正
女鹿 喜治
所属とE-mailアドレスの変更

山東 資子 (甲南女子大学大学院研修員 (和歌山
大学文部科学事務官))
須賀 廣 (岡山県立高梁工業高等学校)
谷 明信 (兵庫教育大学)
E-mail アドレスの変更
金子 朝子
正保 富三

9. 事務局から 会費納入のお願い

2002 年度会費 (一般 5,000 円、学生 4,000 円) 未納の方には郵便振替用紙を同封致しますのでお納め下さい。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

2001 年度会費未納の方は、2002 年度分と合わせてお納め下さい (振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦下さい。2 年続けて会費未納の場合、*JA ECS Newsletter* などの送付を中止させていただきます。住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添え下さい。

名古屋大学国際開発研究科へのアクセスについて

冒頭の「第 20 回大会のご案内」でも述べましたように、秋の大会は名古屋大学大学院国際開発研究科 (〒464- 8601 名古屋市中種区不老町) で行われます。詳細は <http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/> を参照。

国際開発研究科へは、JR 名古屋駅より地下鉄東山線「藤が丘」行で「本山」下車、この間約 15 分です。「本山」駅では 3 番出口から出るのが便利です。「本山」からは、徒歩 20 分、あるいは市営バス 1 番乗り場「本山」より島田住宅行、平針住宅行、名古屋大学前行の何れかに乗車、「名古屋大学前」(2 つ目の停留所) で下車します。広大なキャンパスですので、次に簡単なアクセスマップを貼り付けておきます。なお、ワークショップは 2 日間とも言語文化部・国際言語文化研究科で開催されますので、お間違いないようご注意ください。

なお、宿泊に関しては、適宜お考え頂ければと思っております。



大会当日の昼食について

大会当日は土曜日、日曜日に当たりますので、キャンパス内に適当な食事の施設がございません。2 日にわたる大会ですので、準備委員も弁当のお世話を致しかねます。少し離れた場所にはレストランなどもありますが、移動を考えると時間的にはあまり余裕がございません。そこで、昼食はご持参ということでお願い致します。本山から大学への途中にはコンビニエンスストアもございますので、適宜ご購入求め下さい。なお、湯茶については準備させていただきます。

懇親会のお申し込みについて

従来、懇親会参加のお申し込みは、大会時の受け付けで行っておりましたが、今回の大会では、事前に参加者の数を把握したいと思っております。懇親会に参加ご希望の会員の方は、事務局まで葉書、あるいは E-mail でご一報下さい。大会の 2 日前 **10 月 3 日午後 5 時まで** にお願致します。上でも述べましたように学会創立 10 周年を記念する大会ですので、できるだけ多くの会員のご参加をお待ちしております。

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありませんでしたら、どしどしご提案下さい。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せ下さい。

FORUM

ISFC 29 報告

山形大学 岡田 毅

Stig Johansson 先生の進行によるワークショップのオープニングは、静かな彼自作の詩。「オスロの家の周辺の散歩中に見かけた光と影のコントラスト、この対照によっていかに物事が美しく鮮やかに見えたことか……。」そして parallel corpus をめぐる 5 時間に及ぶワークショップ、‘Corpora and Cross-linguistic Research’ が彼のペーパー ‘The Use of Multilingual Corpora’ で開始された。7 月 15 日に 170 名近くの研究者が参加して、University of Liverpool で開幕した The 29th International Systemic Functional Linguistic Congress の初日、午後のプログラムである。この大会はテーマを Systemic Linguistics and the Corpus としており、今大会の席でも豊饒としてご健在な Michael Halliday 先生の Systemic Functional Linguistics の枠組みに対して、コーパス研究のもたらす貢献を模索しようとする姿勢が伺えた。Johansson 先生のワークショップでは他に 4 名のスピーカー達が、英語・オランダ語・ドイツ語・スウェーデン語・ノルウェー語を網羅しての thematic choice や grammatical metaphor のコーパスベースな研究成果を論じた。

7 月 19 日までの 5 日間開催されたこの大会を通して、おしなべて感じられることは、SFL 独特の範疇化や用語と、標準的なコーパス研究でのそれらとが必ずしも有機的に結びつかないという点と、SFL の研究者

達のコーパス処理に、少々脆弱さが見受けられ、いかにも我田引水的な色彩を放つことが多かったという

点である。SFL 的 tagger を構築する試みを紹介した研究発表でも、結局は Eric Brill のシステムの焼き直しであり、ジャンルやレジスターを扱う際に、全く不用意に「旅行案内書というジャンルにおいては……」とか、「半技術的ジャンルでは……」というような、前提も定義もない議論がスタートするというような場面もあった。この意味で、今大会は、最近になって漸く本格的に始動しだした、理論的な言語研究とコーパス研究を融合させるための各種の試みのひとつと捉えられるかもしれない。(10 月 3 日~5 日にドイツの University of Osnabrueck で開催されるワークショップ、Quantitative Investigation in Theoretical Linguistics などは注目に値する。<http://www.cogsci.uni-osnabrueck.de/qitl/QITL-Dateien/genaral.html>)

16 日夕方の年次総会にも参加したが、インド、日本、オーストラリア、ブラジル、デンマークというように 5 年先までの大会開催地を検討し、決定してゆくという長期ビジョンには驚かされた。前神戸大学の筧先生が、2003 年に同志社大学で開催される 31 回大会の案内をなされた。

Johansson 先生は 10 月に JAECS の招聘で来日されることを楽しみになさっており、前もって *English Corpus Studies in Japan* (2002) を読んで、日本のコーパス研究に対する理解を深めておきたいと個人的に話してくださった。「日本語と英語とでは余りにかけ離れており、parallel corpus 研究が非常に困難」という筆者の言葉に対して、「我々は英語・ドイツ語・ノルウェー語というような非常に似通った言語間の parallel corpus しか研究していない。日本語はかけ離れているからこそ魅力的」と穏やかに、そして自信に満ち溢れて答えてくださった。この週、イングランドは「奇跡的に」快晴続きであった。



(ISFC 29 のワークショップで Stig Johansson 先生と)

英語コーパス学会 Newsletter No. 39

Nov. 16, 2002

■会長: 今井 光規
■事務局: 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室
■TEL: 088-656-7129 ■郵便振替口座: 00940-5-250586 (英語コーパス学会)
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: jun@ias.tokushima-u.ac.jp

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

1. 第 20 回大会報告

英語コーパス学会第 20 回大会は、10 月 5 日(土)、6 日(日)の両日、名古屋大学国際開発研究科で開催されました。学会創立 10 周年を記念する大会として、準備に半年以上、2 度にわたる大会準備のための会議を持ち、「わが国のコーパス言語学の成果と展望」という大会テーマのもとで開催でした。当日は天候にも恵まれ、事務局の調べでは会員の参加者 102 名、新入会員 11 名、当日会員 34 名、賛助会員 1 名の合計 148 名の出席がありました。

初めての 2 日にわたる開催でしたが、恒例になっております午前中のワークショップも 2 日にわたり行なわれました。「正規表現によるテキスト検索」を取り上げ、初心者むけの「基礎編」と経験者を対象にした「応用編」を開講し、講師には大名力先生(名古屋大学)をお願いしました。Web 上で正規表現の初歩から応用までの実習を行い、2 日とも 50 名近くの参加者があり、分りやすく、まとまった内容だったと好評を得ました。

10 月 5 日の午後の大会では、今井光規会長(摂南大学)の挨拶の後、学会創立 10 周年を記念して制定された JAECS 学会賞の発表がありました。選考委員会委員長の赤野一郎先生(京都外国語大学)より選考経過の説明と、今年度の JAECS 学会賞を Toshio Saito, Junsaku Nakamura and Shunji Yamazaki (eds.) *English Corpus Linguistics in Japan* (Amsterdam, Rodopi, 2002)を編集した 3 名の編者に贈呈する旨の報告をいただき、会長より編者を代表して齊藤俊雄先生(大東文化大学)に賞状が贈られました。なお、今年度の奨励賞には該当者がいませんでした。

研究発表は従来のコーパス言語学中心のもの、学習者コーパスや英語教育への応用に関する 2 つの平行セッションを設けました。第 1 室では、松野和子さん(名古屋大学大学院生)の「アメリカ英語における国名の使用頻度に基づく『認知的世界地図』構築の試み」、家口美智子先生(摂南大学)、家入葉子先生(京都大学)、岡部浩子さん(神戸市外国語大学大学院生)による共同研究「アカデミックスピーカーの発話語数のジェンダー差 Corpus of Spoken Professional American-English の分

析から」、田中泉さん(ランカスター大学共同研究員)の「文の直接構成素レベルでの解析済みコーパスの比較」と、高見敏子先生(北海道大学)の「文体差に関わる語彙の特定 Bank of English の『大衆紙語』と『高級紙語』の形容詞」の 4 件の発表がありました。

「学習者コーパスとコーパスの英語教育への応用」を中心とした研究発表第 2 室でも、金子朝子先生(昭和女子大学)の「国際学習者コーパス ICLE/LINDSEI 最新の動向」、鈴木千鶴子先生(長崎純心大学)、吉原将太先生(同)、渡辺洋子先生(同)の共同研究「英語学習者コーパス分析法の開発から電子掲示板の改良へ」、小林多佳子先生(昭和女子大学)の「“Maybe,” “Perhaps,” “Probably” は日本人英語学習者の書き言葉でどのように使用されているか 学習者コーパスを利用したアプローチ」、野口ジュディー先生(武庫川女子大学)の「専門英語教育におけるミニコーポラの有効性」と題した 4 件の発表が行われました。

どちらのセッションでも、様々なコーパスを独自の切り口で分析したユニークな研究が見られ、熱心な討論が展開しました。特に、学習者コーパスを中心としたセッションは、初めての試みでもあり、多くの会員にご参加いただきました。今後とも継続的にこのようなセッションをプログラムの中に組み込むことができればと思っております。

創立 20 周年ということで、大会テーマに沿って研究と教育に関連した 2 つのシンポジウムが開かれました。まず、初日の最後のプログラム「日本における英語コーパス言語学の現状と展望」と題したシンポジウムでは赤野一郎先生(京都外国語大学)にコオディネーターをお願いしました。語彙、構文、テキスト、英語史、辞書、英語教育の 6 つの領域について、それぞれ、司会の赤野先生、深谷輝彦先生(椋山女学園大学)、田畑智司先生(大阪大学)、西村秀夫先生(山口大学)、井上永幸先生(徳島大学)、朝尾幸次郎先生(東海大学)に講師をお願いし、今日に至るわが国のコーパス言語学の主要な成果を概観し、コーパスが英語研究に如何に貢献した

かを検証するとともに、今後の方向について議論していただきました。

「コーパスを如何に効果的に教育に利用するか」についてのシンポジウムは 2 日目の午前に行われました。「コーパスを利用した英語教育と英語・英文学研究指導 実践報告と今後の可能性」と題したこのシンポジウムは八木克正先生(関西学院大学)をコーディネーターに、講師に投野由紀夫先生(明海大学)、梅咲敦子先生(帝塚山大学)、大門正幸先生(中部大学)、石川慎一郎先生(広島国際大学)をお願いし、「英語教育」、「英語研究(共時的視点から)」、「英語研究(通時的視点から)」、「文学研究」の4つの視点から、コーパスの果たす役割やその可能性を議論していただきました。参加者からは、我々の日頃の授業実践に役立つ話であったとの感想が聞かれました。

創立 10 周年記念大会を締めくくる最後のプログラムとしては、オスロ大学の Stig Johansson 先生に“Corpus Linguistics: past, present, future”のタイトルでご講演をいただきました。LOB Corpus の編纂や、ICAME の創立者のお一人としての経験、さらに、*Longman Grammar of Spoken and Written English* やパラレルコーパス編纂の経験に基いたお話は非常に興味深い、有意義なものでした。講演は MD に録音してありますので、大会に参加できなかった会員にはお送りすることもできます。また、できれば JAECS10 周年記念論文集に収めたいと思っておりますので、ご期待下さい。

大会初日の夜、恒例の懇親会が開かれました。10 周年記念ということもあり、今回は 70 名近くの会員にご出席いただきました。滝沢直宏先生(名古屋大学)に司会をお願いし、会長挨拶、乾杯のあと、会員同士の交流と情報交換でおおいに盛り上がりました。この懇親会には特別講演講師の Johansson 先生もお招きし、ご挨拶をいただくとともに、席上、前日の運営委員会でお認め頂いた名誉会員証をお渡ししました。これで、7 名の名誉会員が誕生したことになります。最後に、来春、関西外国語大学短期大学部で開かれる第 21 回大会での再会を事務局よりお願いし、終了いたしました。

名古屋では 5 年ぶりの大会でしたが、無事、成功裏に終えることができました。これも、開催校である名古屋大学の杉浦正利先生を中心に、献身的に御協力頂いた滝沢直宏先生、大名力先生、大室剛志先生、山下淳子先生、木下徹先生のお力添えがあったことでした。また、素晴らしい会場を提供頂いた名古屋大学国際開発研究科、言語文化部にも、この紙上を借りて厚くお礼申し上げます。国際開発研究科の院生諸君にも、会場準備、受付などのお手伝いをいただきました。明るく、礼儀正しい院生諸君に

はとてもお世話になりました。重ねてお礼申し上げます。

2. 役員の時年に関する申し合わせについて

現在、役員に関して英語コーパス学会会則第 6 条に以下のような規定があります。

第 6 条 本会は次の役員をおく。役員の時年は 2 年とし、重任を妨げない。

会長	1 名
運営委員	若干名
監事	1 名
事務局長	1 名

この規則では、役員の時年について触れていませんが、最近、高時を理由に役員を辞退されたり、辞任をご希望な先生方もおりますので、学会として時年を制度化する必要があるのではないかということになりました。そこで、大会前日の 10 月 4 日午後 6 時より開かれた運営委員会において審議の結果、時年に関して以下のような申し合わせを決定しました。

< 役員の時年に関する申し合わせ >

役員には 69 歳を越えて委嘱されることはない。

3. 会誌『英語コーパス研究』第 10 号について

『英語コーパス研究』第 10 号(2003)に多くのご投稿をいただき、ありがとうございました。第 19 回大会でご講演をいただいた Jan Aarts 先生からご寄稿をいただき、巻頭を飾る予定です。また、第 20 回大会で催された二つのシンポジウム「日本における英語コーパス言語学の現状と展望」、「コーパスを利用した英語教育と英語・英文学研究指導 実践報告と今後の可能性」を活字化するべく、発表者から原稿を集めています。さらに、今回は全部で 8 本もの研究論文が寄せられ、現在査読を進めています。コーパスを利用した英語研究が盛んな証と受け止めることができそうです。

また、第 20 回大会の前日に開かれた運営委員会で『英語コーパス研究』編集委員会内規が承認されました。この内規は、1. 組織と構成、2. 編集委員の時年、3. 投稿及び論文審査に関する方針から成り立っています。これにより、編集委員会の位置づけ、仕事、編集の方法を明確にすることができました。

最後に、今後とも会員のご協力を得ながら、より質の高い学会誌を編集したいと思っておりますので、引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いです。

『英語コーパス研究』編集委員会
深谷輝彦(椋山女学園大学)

4. 第 21 回大会の日程と研究発表募集について

2003 年度の春の大会(第 21 回大会)は 4 月 26 日(土)に関西外国語大学短期大学部中宮校舎(〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町 16-1 : 072-805-2801/2802 (代) URL: <http://www.kansaigaidai.ac.jp/>)で開催される運びとなっております。是非、今から出張の予定に組み込んで頂ければ幸いです。例年より少し遅めの日程ですが、会場校準備委員、会長、事務局ともどもお待ちしております。

大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、電子メールまたは郵便のいずれかで事務局にお申し込みください。

【応募締切】2002 年 12 月 20 日(金)

【提出物】題目と要旨(800~1200 字程度)

【内容】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

【採否決定】2003 年 1 月下旬(予定)

【その他】1. 時間 発表 25 分+質疑応答 5 分
(応募数により短くなることもある)

2. 資格 本学会会員であること。

ワークショップ、シンポジウム、記念講演会などを企画する予定です。アイデアをお寄せください。

なお、すでに秋の第 22 回大会は明海大学で開催されることに決定しております。会場校の先生方にはお世話になりますが、よろしく願いいたします。なお、詳しい日程などはその都度、*Newsletter* でお知らせいたします。

5. 東支部の活動について

JA ECS Newsletter No.38 以降の東支部の活動と今後の予定についてご報告します。

「第 8 回コンピュータによる英語研究の講習会」名古屋大学で開催された第 20 回大会で特別講演をされたオスロ大学教授 Stig Johansson 先生を東支部でもお招きして、平成 14 年 10 月 10 日(木)午後 2 時 30 分から、大東文化大学板橋校舎で英語コーパス学会員、中高の英語教員、大学院生、大学生を対象に講演会を開催しました。タイトルは“The Impact of Corpora on the Study of English Grammar”

で、*Longman Grammar of Spoken and Written English* の共著者としての経験に基き、英文法研究におけるコーパスの果たす役割について、初学者にも分かりやすく丁寧にお話していただきました。

大東文化大学の招きで BNC 検索用のソフト BNCWeb を開発されたチューリッヒ大学の Sebastian Hoffmann 先生が来日されます。その機会を利用して、東支部にも先生をお招きし、第 9 回コンピュータ講習会を次の予定で計画しております。

【主催】英語コーパス学会東支部

【対象】英語コーパス学会会員、中高大教員、院生、大学生

【内容】BNCWeb を利用した BNC の検索

【講師】Sebastian Hoffmann (チューリッヒ大学講師)

【日時】平成 14 年 11 月 30 日(土) 14:30~16:00

【場所】東京都板橋区高島平 1-9-1

大東文化大学板橋校舎

【交通】東武東上線東武練馬駅よりスクールバス
都営三田線 西台駅より徒歩 10 分

【費用】参加費 500 円 (会員・学生は無料)

【定員】40 名

【申し込み・問い合わせ】

Fax: 大東文化大学英語学科
03-5399-7373 (山崎宛明記)

BNCWeb は廉価で CD-ROM 版が入手できますが、今回は、そのデモンストレーションを行っていただく予定です。

第 10 回コンピュータ講習会は、1 月に入って、やはり大東文化大学で開催する予定です。講師に投野由紀夫先生(明海大学)をお招きし、初心者を対象に WordSmith による検索についての講習を行います。詳細は未定ですが、確定次第、ML を通じてお知らせ致します。

東支部支部長 山崎俊次(大東文化大学)

6. 関西地区での BNCWeb の講習会について

上記、東支部での BNCWeb の講習会の後、講師の Sebastian Hoffmann 先生が関西を訪問することになっております。その機会を利用して、当学会と大阪大学言語文化部との共催で、関西地区でも BNCWeb の講習会を以下の要領で開催することになりました。

- 【内 容】BNCWeb を利用した BNC の検索
 【講 師】Sebastian Hoffmann (チューリッヒ大学講師)
 【日 時】平成 14 年 12 月 2 日 (月) 17:30 ~ 19:00
 【場 所】豊中市待兼山町 1-8
 大阪大学大学院言語文化研究科 2 階会議室
 【交 通】(1) 新大阪駅から地下鉄御堂筋線で千里中央行に乗車、千里中央で下車。大阪モノレール大阪空港行きに乗車、柴原駅下車、進行方向に徒歩 10 分で大阪大学正門。
 (2) 阪急梅田駅から宝塚線急行または特急に乗車、石橋駅下車。徒歩 15 分。
 【費 用】参加費 500 円 (会員・学生は無料)
 【定 員】40 名
 【申し込み・問い合わせ】
 豊中市待兼山町 1-8
 大阪大学言語文化部
 田畑智司

7. JAECS10 周年記念論文集について

学会創立 10 周年を記念する 3 つの事業が進行していましたが、10 周年記念大会は無事終了、学会賞も同大会で第 1 回の審査結果を発表することができました。残るは記念論文集の刊行ですが、9 月 30 日の原稿提出締め切りまでに 12 編が事務局に到着しました。23 名の執筆希望者の内、辞退された方や、英語のネイティブチェックが間に合わない等の事情で、提出された論文数が予想に反して少ない結果になりました。

そこで、質、量ともに当学会の 10 周年を記念するのにふさわしいものにするために、編集委員会で検討、運営委員会の了承を得た上で、執筆希望者で未提出の方に 10 月末日を限度として、再度投稿をお願いし、それまでに到着した原稿は受理することに致しました。最終的に受理した論文は 15 編となり、現在、会誌に準じた審査要領に従って審査を頂いております。

今後の予定としては、11 月末までに審査を終え、その結果を投稿者全員にフィードバックし、書きなおしを必要とするものについては、12 月末日までに再提出していただくことになっております。その後、編集委員会で章立て、掲載順序などを検討、実質的な編集作業を 2 月中に終え、再度、その結果を執筆者にフィードバックし、3 月末までにカメラレディの最終稿の提出をお願いする予定です。

来年秋の大会で刊行できればと考えておりますが、応募論文の数が少ないことに加えて、全てが

審査に合格するかどうかは現時点では不明です。さらに、出版社との交渉も残っております。当学会の 10 周年を記念するのにふさわしい論文集にするため、場合によっては、発行時期が遅れる可能性が無きにしもあらずという状況です。

8. 新入会員紹介

(個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開しておりません。郵送されるニューズレターをご覧ください。)

JAECS Newsletter No. 38 発行以降の新入会員の方は次の通りです(11 月 11 日現在、敬称略)

阿部 真理子(上智大学非常勤)

E-mail:

石川 純子(豊田工業高等専門学校非常勤)

E-mail:

石川 保茂(京都外国語大学)

E-mail:

石部 尚登(大阪大学言語文化研究科 S)

E-mail:

岩崎 克己(広島大学情報メディア教育研究センター)

E-mail:

岡部 一光((株)両備システムズ)

E-mail:

倉本 充子

E-mail:

後藤 一章(大阪大学大学院言語文化研究科 S)

E-mail:

小山 由紀江(名古屋工業大学)

E-mail:

三省堂外国語辞書出版部(賛助会員)

E-mail:

清水 伸一(安城学園高等学校)

E-mail:

永浜 雅章(創価大学)

E-mail:

中山 仁(福島医科大学)

E-mail:

西尾 和展(福岡雙葉学園)

E-mail:

新田 香織(近畿大学)

590-0452 大阪府泉南郡熊取町山の手台 1-22-10

0724-052-5680 E-mail:

E-mail:

三原 京(けい)(近畿大学)

E-mail:

三宅 忠明(岡山県立大学)

E-mail:

村尾 玲美(れみ)(愛知教育大学S)

E-mail:

山添 孝夫(滋賀県立八幡商業高等学校)

E-mail:

9. 名簿訂正のお願い

会員名簿の記載内容に変更がございます。以下のようにご訂正下されば幸いです。事務局では、会員名簿のできる限り正確な管理に努めております。誤りや変更がございましたらご一報下さい。

E-mail アドレスの変更

秋山 孝信
浅原 京子
家入 葉子
磐崎 弘貞
衣笠 忠司
佐良木 昌
清水 眞
杉浦 千早
杉森 直樹
中村 洋一

なお、住所などの変更につきましては、第20回大会時にお申し出いただいた分も含めて、現在整理の最中です。ご迷惑をお掛けしますが、少々、お待ち下さい。

10. 事務局から

会費納入のお願い

2002年度会費(一般5,000円、学生4,000円)未納の方には郵便振替用紙を同封いたしますのでお納め下さい。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

2001年度会費未納の方は、2002年度分と合わせてお納め下さい(振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦下さい。2年続けて会費未納の場合、*JA ECS Newsletter*等の送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添え下さい。

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案下さい。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、

身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せ下さい。

FORUM

新刊情報

徳島大学 中村 純作

E-mail:

本学会会員赤瀬川史郎氏(赤瀬川翻訳事務所)が共著者の一人である『コーパス言語学の技法 : テキスト処理入門』がこの10月に夏目書房より刊行された。続編の2巻から4巻はそれぞれ「インターネットの活用」「専用ソフトによる言語分析」「スクリプト言語による言語分析」を副題として、2003年中に出版される予定である。

コーパスを利用した言語研究の初期の時代には、磁気テープで提供されるBrownコーパスやLOBコーパスを大型コンピュータを使いながら処理する技術が要求されたものである。最近では、目を見張るような情報技術の進展に伴い1億語のコーパスをノートパソコンや、インターネット上で手軽に利用できる状況になり、コーパス検索用のソフトも数多く出まわり、いつでも、誰でもコーパスの利用が可能になってきた。計算機の仕組みやプログラム言語の知識がなくてもコーパスの利用が可能であるが、既成の枠組みを離れた独自の研究を進めようとする時には、やはり最低限のコンピュータ処理技術が必要とされる。このシリーズは、どうやらこのコンピュータによるテキスト処理の基礎技術をマスターした上で、その先にある言語研究を目指す研究者を対象としたものと思われる。

そのシリーズ第1弾として書かれた本書は、大きく4章に分かれ、それぞれのタイトルは「パソコン操作の基礎」「テキストファイルとは何か」「テキスト処理の基本」「テキスト処理の基本 : 一括処理」となっている。具体的には、エクスプローラやMS-DOSによるファイル操作、Project Gutenbergよりダウンロードしたテキストの秀丸エディターによる編集、正規表現やgrep検索、さらにMS-DOSコマンドによるバッチ処理、スクリプト言語Perlによるバッチ処理等を扱い、シリーズ第2弾以降の基礎となる項目を網羅している。

Windowsの時代にコマンド志向のMS-DOSに再び戻って基礎的な概念を学ぶことの意義は大きいし、アクティブウィンドウのスクリーンショットを

多用した説明も分かりやすい。A5 版 260 ページで、本体価格 2,800 円（税別）です。ご一読下さい。

ICAME 2002 に参加して

豊田高専 高橋薫

<http://ll.dge.toyota-ct.ac.jp/>

年に一度、国を変えて開催される ICAME の大会が、本年度は、5 月 22 日より 5 日間、スエーデン・ヨーテボリ(Göteborg)で行われた。集まってみると日本からは、本学会でもおなじみの中村純作先生(徳島大学)・山崎俊次先生(大東文化大学) ICLE の Board member でもある金子朝子先生(昭和女子大学) 応用言語学を専門分野とする山下淳子先生(名古屋大学) そして私と、皆が英語コーパス学会の会員ということに相成った。

特筆すべきことは、言語学分野であまりにも著名で、話す機会などは考えられないような学者の方々と文字通り膝を交えての交流が叶ったことにある。Geoffrey Leech, John Sinclair, Michael Halliday, Stig Johansson (敬称略) 等など。

今大会のテーマである The Theory and Use of Corpora がコーパス研究を comprehensive に捉えるという印象を与えてか、基調講演もコーパス研究を一望するに有益なものばかりであった。

コーパス研究は語彙、語法を中心とする従来型の研究から、談話、話し言葉の分析、パラレルコーパス・学習者コーパスの構築・分析といった広がりを見せている。なかでも圧巻は、John DuBois 氏による The Santa Barbara Corpus of Spoken American English の音声データのデモにあった。こ

の音声データを今後どう分析するかは、大変興味深いところである。

さて、日本からの参加者もそれぞれの持ち味を生かしての発表となった。まず、山崎先生が演台に立ち 100 人余の参加者の前で The Study of Comparison in the WWC について概説した。分科会では金子先生が、Real Data and Teaching of Apology Strategies についての研究を報告し、中村先生は、The Structure of the BNC World Edition Based Upon the Distribution of -ly Manner Adverbs と題して、多変量解析の結果を示し言語学的解釈を加えた。

私は、BNC を用いた typology の研究成果を発表し、続いて山下先生が応用言語学的な分析手法とその成果を発表した。

5 日間という長丁場の国際会議がどういったものか全く見当が付き飛行機に乗り込んだが、幸運にもビジネスクラスのシートをあてがってもらい、おかげでパソコンの電源消費を気にせず、発表用の power point の下準備をすることができた。いざとなれば恥を忍んで頼んでみることをここでこっそりお勧めしたい。

また、発表日が 4 日目ということもあって、外出を控え、結果的には、十分準備が整ったの発表となり今更ながら胸をなでおろす。

ただ、贅沢だとも言えようが、趣向を凝らした数々の小パーティーが食欲をそそり、重量オーバーさえも気にしなくなってしまうことが悩みであった。とりわけボートで出かけた小島の要塞レストランでのディナーは、発表終了直後ということもあり、ワインのアルコールが心地よく体にまわり至福のひとつときでもあった。